

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、於呂圏域） 第3回会議 議事録

開催日時	令和3年3月17日（水）10時から11時40分まで
参加者	委員：12人 事務局：1人 関係機関：5人
場 所	浜北地域活動・研修センター
内 容	<p>1. 開 会</p> <p>2. あいさつ 会長より挨拶</p> <p>3. 協議</p> <p>（1）事例検討『認知症高齢者が無事に保護されたケース』 Aさん（83歳の女性、介護保険 要介護1、アルツハイマー型認知症） 地域包括支援センター於呂からケースについての説明を行う。</p> <p>【委員からの意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aさんがアルツハイマー型認知症と診断されたのはいつなのか。 →介護保険を申請してサービスを利用したのが平成28年からで、発症してから2～3年経っている。 ・美容院から帰ってこないという以外にも様子の変化はあったのか。 →記憶力の低下はあったが、畑仕事や近くの場所には行っていた。 ・認知症に理解のある方が多くいれば、早期発見へつながる。 ・発見が遅れると捜索が大変で、一声かけられると早期発見につながる。 ・認知症の家族の中には、認知症をかくそうとしている家族もいる。 ・徘徊の高齢者を中学生が保護して助けてくれ、よい中学生に出会えてよかったと話している。 ・家族はどういう関わりをもっているのか。 →Bさん（夫）はおだやかで優しい。Aさんと暮らしていきたい。 →息子は県外在住でBさんに任せるしかない。 ・知っている方で認知症らしいという話を聞いていたので判断できたケースがある。 →地域の方には認知症であることを知ってもらう必要がある。 ・オレンジシールの交付状況を教えてください。またオレンジシールを付けている方を見つけたら、どこに連絡したらよいのか。 →浜松市全体で825件、浜北区で95件、包括於呂圏域で28件の登録がある。4桁の番号がある。靴のかかとや杖に貼っている方がいる。 シールの番号で身元がわかる。

	<p>シールを付けていて様子がおかしい方がいた場合は、包括か警察、区役所に電話をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で見守るとなれば、どこまで個人情報を出せますか。 →本人や家族の理解が必要である。地域で支えていくという認識が必要で、意識づけを地域住民の方にしてもらうのが課題である。 ・認知症を理解する方法として、認知症高齢者の徘徊模擬訓練を地域で行う方法があるが、広範囲より小さなコミュニティでやっていく方がよい。 ・シニアクラブで新型コロナウイルスがおさまったら、認知症講座の徘徊模擬訓練を是非やってみたい。 ・認知症について子どもでもわかるように勉強できる場を設けていく。 ・どうやって声をかけたらいいかわからない方もいるが、声をかける勇気が必要である。 ・模擬訓練は具体的にどのような訓練になるのか。 →配役を決めて行い、シミュレーションをする。驚かせない、自尊心を保たせる声掛けなどを経験する。 ・地域の力をかりて、もっと認知症を理解していく。 ・異変をみつけて、見て見ぬふりをしない地域をつくる。 ・認知症を考えるよいきっかけとなった。非常に良かった。 <p>(2) 地域福祉活動の現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の会議で行う。 <p>4. 次回の開催予定など</p> <p>5. 閉 会</p>
<p>今後の見通し等</p>	<p>次回会議予定：令和3年 6月16日（水）10：00～中瀬協働センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議体会長と包括於呂、市社協と協議し、協議体の議題を検討していく。